# 現代中・高校生の行動傾向

## ── ＣＤＰＡの副産物 ──

続　　有　　恒

## Ⅰ．問　　題

われわれは，ＣＤＰＡの作成過程において，最終的には８対の相互に無関相で，しかも反応の分布に偏りの小さな項目を抽出することを主眼として作業を進め，その間多数の項目を捨ててきた。すなわち，最初420対の項目から90対の項目を抽出し(1)，次にその90対の項目から８対の項目を抽出した(2)。この場合，８対を抽いた残りの82対のなかから，14対を捨て，68対の項目を「関連項目」として利用はしたが，それはあくまで，中心である８対の項目に対する反応のパターンの解釈に当って，それらを補助的に利用するためであった(3)。

もっとも，その補助的利用の際に，男生徒や女生徒にポピュラーに出現する反応のあることや，中学生，高校生にそれぞれ頻出する反応傾向のあることは気付かれ，そのこともパターンの解釈に当って大いに考慮はしたが，逆に，ある１対の項目への反応が極端に偏っている場合について，その偏りの意味を考えてみるということはしなかったのである。

ところで，われわれが，１対の項目を作成するに当っては，対をなす双方に偏りなく反応が分布することを期待していたのであったから，それが極端に一方に偏っている反応をもたらした場合には，被検者個々の特徴を越えた，共通的特徴を示しているのだと考えなければならない。もちろん，項目作成時におけるわれわれの検討にもかかわらず，作成された項目自体に問題があると考えるべき場合もあろうが，大多数は，被検者の共通的特徴ないしは傾向を示していると考えられる。このような視点から項目選択の過程における結果を見直してみるならば，そこには，現代の中学生および高校生に共通する行動傾向が現われているはずである。

すなわち，項目選択の過程で捨てて来たものの中に，そのような視点から生かされる情報があるはずだと考えられる。この報告は，そのような情報を発掘し，それがどのようなものであり，どれだけのことを物語るものなのかを調べてみようとしたものである。

## Ⅱ．項目の選択

ＣＤＰＡ作成の最初の段階で用いた420対の項目では，「どちらともいえない」を挿み「まったくＡ」から「まったくＢ」までの５段階の反応がとってある。この反応について，左右の２段階をまとめて，「Ａ」または「Ｂ」としうる反応が，被検者の60％以上に認められたとき，それを偏った反応として抽出することとした。これをここでは便宜的にＸ資料と呼ぶこととする。

実際には，Ｘ資料は，中学男子，女子，高校男子，女子の４グループ別々に60％以上の偏りの有無をチェックし，１グループでもその偏りが認められたものは，すべて抽出した。その結果，Ｘ資料に含まれる項目は，全部で160対となった。

次に，ＣＤＰＡ作成の第二段階で用いた90対の項目では，中間の「どちらともいえない」という反応を許さない４段階で反応が求められた。そこで，中間の反応が，ＡかＢかのいずれかに移行していると考えられるわけであるから，元来，90項目の選択には，中間の反応が少ないことが基準の一つとなっていたことも考慮して，ＡかＢかの一方に65％以上の偏りのあるものを抽出の基準とした。このようにして得られたものを，ここではＹ資料と呼ぶこととする。

Ｙ資料もまた，実際にはＸ資料と同様４群について，一つでも偏りのある項目はすべて抽出したので，Ｙ資料に含まれる項目は合計51対となった。

## Ⅲ．Ｘ資料からの情報

160対の項目のなかには，４群とも一方に偏った反応をしているものもあれば，ある１群にしか偏りが認められないものまである。また，項目の内容として，自己自身の行動傾向を問うているものから，自己以外の人，物についての認知を問うているものまで，さまざまである。以下に，これらを分類して，列挙していこう。

### １．中高男女ともに共通した傾向

**Ａ．自己自身の行動傾向として**――第一に学校の生徒としての側面に関するものでは，

(1)「（卒業式など無意味だ，というのに対して）卒業式はやはり一通りの式をやらないと卒業気分になれない」（75)*

(2)「試験になると，（朝早くではなく）夜勉強する」（74）

(3)「社会科などの共同研究では，（二，三の重要な資料に当たればよい，とは考えず）できるだけ多くの資料を調べるべきだ」（62）

(4)「英語の単語を覚えるのに，（辞書を片っぱしから覚えるのではなく），教科書に出てきたものから覚えていく」（92）

(5)「（学校の成績は）（一二の学科で優れた成績をとればいいとは考えず）全ての科目に平均した成績をとりたい」（79）

(6)「（勉強や仕事は計画に従ってやらないと気が済まない方ではなく）気の向いたときに気の向いた勉強や仕事をするのが好き」（75）

(7)「夏休の宿題は（毎日少しずつというのではなく）一気にまとめてやる」（66）

(8)「勉強や仕事を始めると（没頭してしまうのではなく）トタンにあれこれ別の用事を思いつく」（68）

(9)「計画を（変更することがほとんどない方ではなく）途中で変更することが多い」（72）

(10)「（物を作るなら）（上手な人と同じものを作りたい方ではなく）下手でも誰も作らなかったものが作れると嬉しい」（81）

(11)「（材料を見てから作るものを考えるのではなく）作るものを決めてから材料を考える」（80）

(12)「（本は面白そうなところから読み出すのではなく），始めから読む」（72）

(13)「（一人の作家の全作品を読み上げたい方ではなく）いろいろな作家の作品を読みたい」（69）

(14)「（高校はどこの高校も同じではなく）一口に高校といってもいろいろだ」（84）

(15)「（中・高校生それぞれ共通性があるとは考えず）一口に中・高校生といってもいろいろなのがいる」（73）

(16)「（人気がなくても勉強のできる生徒が模範的な生徒なのではなく），勉強はできなくても皆のためにつくすのが模範的生徒である」（70）

(17)「友だちは，（相互利用という点で成立しているのではなく），相互援助で成立しているのだ」（81）

以上の傾向を通覧すると，タテマエと実際との違い，広く浅く万遍なく一通りをという　　（未完）

---

*　括孤内の数字は，平均選択率